

2024年2月4日 礼拝説教要旨

ハイデルベルク信仰問答講解Ⅱ33「新しい人」
詩編51：12～19、エフェソ4：17～24

今日は問88～91が与えられていますが、まず問91から読みましょう。

問91しかし、善い行いとはどのようなものですか。

答 ただ、まことの信仰から、神の律法に従い、この方の栄光のために為されるものだけであって、わたしたちがよいと思うことや人間の定めに基づくものではありません。

信仰問答の第三部「感謝について」では、感謝の生活として十戒や主の祈りといった神さまの教えに従うこと、また祈りに生きる具体的な生活を示します。このような生活を可能にするのは何でしょうか。それはわたしたちの良心でしょうか。高い人間性でしょうか。この問91では「わたしたちがよいと思うことや人間の定めに基づくものではない」とはっきり述べています。つまり、その善い行いはわたしたちから出たものではないということです。ではどこから来るのでしょうか。信仰問答では、それは「ただ、まことの信仰から」来ると言います。

信仰問答の問20に「まことの信仰によってこの方と一つになり、そのすべての恵みを受け入れる人だけが救われる」とあります。「この方」とはイエスさまのことですが、まことの信仰によってわたしたちはイエスさまと一つになります。つまりわたしのうちに生きて働かれるイエスさまこそ、わたしたちの新しい生き方、善い行いを可能にするのです。そしてその時に初めてわたしたちの行いは、純粋に神さまの栄光のためだけに為されるものとなります。わたしたちは純粋に誰かのためにするということがなかなかできません。自分への見返りを求めていることがあります。あるいは何か善いことをするとすぐに人と比べて「自分はこれだけしている」と誇ったり、「あの人は何もしていない」とすぐ相手を責める思いが出てきます。しかし、それならばもはや善い行いとは言えないのです。純粋に一点の曇りもなく誰かのためにする。わたしたちの愛の業はそこが問われています。だからこそ、「わたし」ではなく、わたしの中にイエスさまが生きてこないとは始まらないのです。

そこで問88～90に注目します。

問88人間のまことの悔い改めまたは回心は、いくつのことから成っていますか。

答 二つのことです。すなわち、古い人の死滅と新しい人の復活です。

問89古い人の死滅とは何ですか。

答 心から罪を嘆き、またそれをますます憎み避けるようになる、ということです。

問90新しい人の復活とは何ですか。

答 キリストによって心から神を喜び、また神の御旨に従ったあらゆる善い行いに心を打ち込んで生きる、ということです。

信仰問答は、この悔い改め、回心を二つのことで説明します。それが古い人の死滅と新しい人の復活です。これはセットですから切り離すことはできません。古い人というのは、これまでの罪に支配されていた自分のことです。その古い自分が死んで、同時に新しい人、それは罪に支配されない新しい自分が立ち上がる。この新しい人から「心から神を喜び、また神の御旨に従ったあらゆる善い行いに心を打ち込んで生きる」善い行いが始まります。

それは自分の力、自分の努力でそうなるのではなくて、イエスさまと一つになること、具体的には洗礼を受けることでイエスさまがそのようにわたしたちの存在を新しく造り変えてくださ

るのです。イエスさまは十字架で死なれ、三日目によみがえられました。わたしたちは洗礼を受けてこのイエスさまの十字架とよみがえりの御業にあずかる者とされます。ローマの信徒への手紙に「わたしたちは洗礼によってキリストと共に葬られ、その死にあずかるものとなりました。それは、キリストが御父の栄光によって死者の中から復活させられたように、わたしたちも新しい命に生きるためなのです」(6:4)とあります。それが古い人の死滅と新しい人の復活に他なりません。

キリスト者は皆それを体験していますが、その回心を鮮やかに体験した人が聖書に登場してきます。その人はパウロです。イエスさまに出会うまでパウロは自他共に認める教会の迫害者でした。最初の殉教者になったステファノの殺害にも関わっていました。その日も教会を迫害しようとする途中、突然、天からの光に照らされ、そしてイエスさまの声を聞きます。「サウル、サウル、なぜわたしを迫害するのか」(使徒言行録9:4)その時パウロは目が見えなくなります。聖書には「三日間、目が見えず、食べも飲みもしなかった」(9:9)とあります。このことはこれまでのパウロが死んだことを意味しています。「三日間」というのは、イエスさまの十字架の死を思い起こさせます。イエスさまは十字架で死なれ三日目によみがえられました。三日間、主は死の中におられたのです。パウロもこの時イエスさまの死に合わせられて死んだのです。けれどもこの後パウロは復活します。「すると、たちまち目からうろこのようなものが落ち、パウロは元どおり見えるようになった。そこで、身を起こして洗礼を受け、食事をして元気を取り戻した」(9:18~19)復活はただ元気になっただけの話ではありません。この時からパウロは伝道を始めます。教会の迫害者だった人が、イエスさまの救いを宣べ伝え、教会に仕える者とされました。これほどの劇的な回心がそこに起こされました。

人は変われます。いつからでも何歳からでも遅くありません。歳をとっているからだめだと勝手に諦めてはいけません。わたしたちはもっとよく生きることができるのです。洗礼を受けてイエスさまに結ばれている人は、もうすでに新しく生まれ変わり始めています。それは罪に支配されないまったく新しい「わたし」です。強いられてでもなく、仕方なくでもなく、誰かのために愛を注ぐことができる新しい「わたし」です。そのように生きるために神さまはわたしたちを招いておられます。

天の父よ。イエスさまが十字架で死んで三日目によみがえってくださり、わたしたちに新しく生きる道を備えてくださいました。わたしたちはすでにイエスさまに結ばれて、罪に支配されない新しいわたしにされました。そのことを自覚して、それにふさわしく生きることができま

すようにお導きください。主の御名によって祈ります。アーメン。